

槍ヶ岳夏山合宿

日時：8月1日(火)～3日(木)

場所：長野県松本市、岐阜県高山市

目的：登山技術の向上、山岳遭難の予防・対策、自然保護へ対する意識の向上。

参加者9名

C	L	藤田 琢也	京都産業大学2回生
S	L	鈴木 健悟	京都産業大学2回生
会	計	笠井 高人	京都産業大学2回生
記	録	宇津木 健	京都産業大学2回生
救	急	杉原 浩太	京都産業大学2回生
救	急	補助 松本 幹	京都産業大学2回生
撮	影	篠原 雄介	京都産業大学4回生
記	録	補助 山下 裕	京都産業大学1回生
ゲ	ス	ト 金井 美羽	中京大学3回生

日程

06年8月1日(火)

6:05 JR京都駅集合 天気小雨
6:16 JR京都駅発 JR琵琶湖線 普通 長浜行き
7:22 JR米原駅着
7:30 JR米原駅発 JR東海道本線 快速 金山行き
8:42 JR名古屋駅着 乗換時間が少なくダッシュ
8:46 JR名古屋駅発 JR中央本線 快速 中津川行き
10:02 JR中津川駅着
10:16 JR中津川駅発 JR中央本線・篠ノ井線 普通 松本行き
12:27 JR松本駅着 金井氏と合流 天気回復
12:45 松本電鉄松本駅発 松本電鉄上高地線 普通 新島々行き
13:15 松本電鉄新島々駅着
13:20 発 松本電鉄バス 上高地行き
14:30 上高地バスターミナル到着 装備準備、登山者カード記入、山岳保険加入
15:05 上高地発
15:57 明神着
16:05 明神発
16:53 徳沢キャンプ場着 植生；杉、檜、柾
17:10 テント設営開始
17:15 夕食の調理開始
18:20 夕食 メニュー；牛丼・わかめスープ・桃ゼリー
18:50 片付け、就寝準備
19:40 就寝準備完了
20:00 就寝

06年8月2日(水)

2:30 起床 天気快晴
2:40 テント撤収、食事用意開始
3:30 朝食 メニュー；豚汁(ジャガ芋、豚肉、牛蒡、大根、人参、長ネギ、餅、味噌)
4:07 徳沢キャンプ場出発
4:29 新村橋着
4:30 発
5:28 横尾着
5:40 発
6:20 松本の靴底剥離。応急修理。
6:30 修理完了。出発
7:15 槍沢ロッジ着 植生；白樺、檜
松本、ロッジで靴を修理してもらったのち、小屋の方のアドバイスを受け、緊急会議を開いた後、登山を断念。SL 鈴木が随伴し、両名が下山することに決定。
8:00 槍沢ロッジ発
8:35 赤沢小屋着
8:46 発
9:25 小休止
9:35 発
10:10 小休止 ハイマツ。高木限界 天気晴れ
10:20 発
10:30 雪渓
10:45 天狗原分岐
11:00 小休止
11:20 発
11:45 休憩 昼食；棒ラーメン
12:33 発
12:50頃 天気晴れからくもりへ
13:30頃 天気くもり。ガスの中へ
13:33 小休止
13:43 発
14:33 槍ヶ岳分岐
14:40 槍ヶ岳山荘到着
15:20 テント設営開始
15:45 夕食調理開始
16:15 夕食 メニュー；麻婆春雨丼、フルーツ缶 米3度炊き。硬し 篠原、笠井疲労によりダウン
17:40 食事終了 ブロッケン現象現る！ 天気くもりから晴れへ
19:20 就寝

06年8月3日(木)

2:30 起床 天気快晴
3:00 テント場出発
4:20 槍ヶ岳山頂(標高3,180メートル)到着 雲海
4:53 御来光
5:40 テント場到着
5:45 テント撤収 朝食 メニュー；うどん
7:00 出発。下山開始

8 : 1 0 小休止
8 : 2 0 発
8 : 5 0 小休止
8 : 5 5 発 高木限界まで降りてくる。 植生 ; 杉、檜
9 : 1 0 水場
1 0 : 0 0 槍平小屋着 ペースが遅れているため、金井、藤田両氏と別れ、残りのメンバーは先に下山することに決定。
1 0 : 1 5 槍平小屋発
1 0 : 5 0 小休止
1 0 : 5 5 発
1 1 : 5 0 休憩所着。 昼食 ; 行動食
1 2 : 0 3 出発
1 3 : 3 0 新穂高温泉到着 入浴 天気くもりへ
1 4 : 3 0 新穂高温泉出発 濃飛バス JR高山駅行き
1 6 : 0 5 JR高山駅着
1 6 : 2 0 発 JR高山本線 普通 美濃太田行
1 8 : 5 1 JR美濃太田駅着
1 9 : 0 5 発 JR高山本線 普通 岐阜行
1 9 : 3 8 JR岐阜駅着
1 9 : 5 2 発 JR東海道本線 特別快速 米原行
2 0 : 4 3 JR米原駅着
2 0 : 4 6 発 JR琵琶湖線 快速 姫路行
2 1 : 4 8 JR京都駅着 解散

雑感

C L 藤田

金井さんの足が、怪我をしたわけではないけどかなり痛かったらしく、新穂高へ行く林道に入った辺りで槍平小屋のご主人に会い、金井さんを車に乗せてくれるということで10分ほど乗せてもらいました。その後、追い付いた時には穂高から下りてきた山岳救助隊の方達と一緒に歩いていて、車が入れる辺りからバスターミナルまで二人とも車で送ってもらいました。バスの時間が迫っていたので、そこで別れました。救助隊には車に乗せてもらっただけです。時間は、10:30頃槍平小屋出発で16:00新穂高バスターミナル着です。登山の感想はアプローチ、下山ともかなりの長時間で大変だったし、頂上への取り付きも危険でしたが、その分すばらしい景色が堪能できました。夜の星空も、天の川も見られて素晴らしかったです。もう一回行ってもいいかなと思いました。

S L 鈴木

今回の登山合宿の計画は早くより行われていましたが、新歓の山合宿が雨天で中止となり、今年度初の登山となってしまいました。メンバーは当初10名でしたが、ゲストの1人が参加できなくなってしまい9名に。登山未経験者も2名ほどいました。ただ、1回生の参加が1人だけになってしまったのが少しばかり残念でした。交通手段にはかなりの時間を割き、「いかに安く行けるのか。」をテーマに決定しました。ただ、山行計画は私も含めて部員の体力を甘く見ており、結果的に強行軍となってしまいました。この点が今回の合宿で一番反省すべき点であったと思います。また、今回は途中で松本の靴底が剥離してしまうという当初全く予期していなかったアクシデントがありました。結局彼の靴は上高地につくまでに両方とも破損してしまっていました。登り始めで本当に良かったと思いました。これが山頂付近でなってしまうたら目も当てられない状況になってしまったのではないかと思います。ただ、こういった反省点は次に繋げなければ意味がないので、次回の山合宿は1. 余裕を持った計画 2. アクシデント発生時の対応 に気をつけて合宿に臨んで欲しいと思います。

笠井

やっと念願の槍ヶ岳登頂を完遂することができた！！思えば、悪天候のせいで登山中止を余儀なくされたのは2年前。そのリベンジを今回果たせた。やはり槍ヶ岳はその容貌に似つかわしく、頂上への道のりは苦しいものだった。いい加減にパッキングされた荷物が体を蝕んでいって、正直泣きそうなくらいしんどかった。今回はトラブルもあり全員は登れなかったし、最後はC Lやらされたりといろいろあったので、一応無事に全員が下山できたと聞いたときはホッとした。今回の問題点を改め、最近ご無沙汰になっている山合宿を復興していきたい。

宇津木

空の青、木の緑、雪の白のコントラストはほんま行ってよかったなと思いました。
しんどいし篠原さんに随分腹がたちました。しんどい山は長期休みに一回でいいっす。

杉原

一言で 槍ヶ岳は “ 別世界 ” だよ。 この世のものとは思えないヤリの鋭い穂先に圧倒された。

かぜ吹けば

空を突きさす

ヤリありき

スギK 心のうた

松本

靴が壊れるというハプニングにより、皆に迷惑をかけてしまい申し訳なかった。特に健吾には悪いことをしてしまった。
あとはとにかく疲れた！

山下

山行の時間が長くて大変でしたが、山頂で見た景色はいろんな意味で涙がでました。道中色々なハプニングがありましたが最高の山行が出来たと思います。

篠原

今回は私にとって初の北アルプス、それも念願の槍ヶ岳ということでかなり張り切って参加しました。これまでも様々な山に登りましたが、雪渓の残った北アの日本離れした美しさは想像を絶するものでした。特に豊富な雪解け水の流れる沢の美しさは格別で、登山の疲れとあいまって飛び込みたい衝動に何度もかられました。ただ今回は軽い高山病に悩んだり体力の低下を痛感しました。探検の基本である体力の練成に今後も励んでいきたいと思っています。

金井

・はじめに

今回この夏合宿に参加したのは、高校の時の登山の楽しさをもう一度味わいたかったためである。また、去年、鈴木が高校時代の登山部顧問の先生と登山に行ったことを知っていたので、今年もまた行くだろう。と思ったため、「連れて行ってくれ」と頼んだのが、私が参加した経緯であった。4年ぶりと言うことと、一緒に行くはずだった小林先輩が行けなくなったことで不安もかなりあったが、当日になればその不安も半減した。

・8月1日1,2日前

30日に肉以外の食料をすべて用意した。土が付いているものは洗い、長いものは3等分くらいに切った。痛まないように乾燥させた後、袋に入れ野菜室に入れておいた。

31日には、銀マットと帽子を買いにアルペンに、軍手とライターを買いにCanDoに、豚肉を買いにイトーヨーカドーに行った。豚肉は、帰ったらすぐに冷凍庫に入れ冷凍した。

1日には、焼肉用の肉を買いに行った。100g200円の徳用カルビ(味つき)を1kg購入し、帰った後すばやく冷凍庫に入れた。肉以外のものは、11時30分くらいまでにザックに入れ、家を出る直前に肉を冷凍庫から出し、ザックに入れた。12時20分ごろに30分ごろの電車に乗るため家を出た。ザックは思った以上に重く、自分では持ち上げられなかった。体力の衰えを感じた。

松本駅に着き、電車の窓から鈴木が見えた。他の人は何処にいるのだろうか？鈴木が戻ってくるのを待ち、探検部の人を紹介してもらった。しかし、名前は覚えられなかった。

・上高地についてから

1日は、2時間ほど歩いた。河童橋を渡りたかったが、渡れずに通り過ぎ歩いた。ここで、体力の差(か足の長さの差か)を思い知らされた。みんな歩くのが早い。ザックの重さは、きっと同じくらい、または私の方が軽いはずであるが、私は付いて行くのがやっとだった。普段歩かないことがいけないのであろう。ただ、足手間取りにはなりたくなかったし、迷惑もかけたくなかったので、なるべく付いていけるようにした。途中、篠原さんや鈴木が話しかけてくれ、気がまぎれた。

途中の休憩で、リンゴを買った。1個200円であった。登山で食べるリンゴは美味しいのである。痛んでいても、ぼけていても、下界で食べるものよりはるかに旨い。昔、一度感動したことがある。しかし、この段階でリンゴは早すぎた。と食べて感じた。ただ、後にも先にもリンゴと出会えたのはこの1回きりであったので、ここで買っておいで良かった。

・テントを張る

テント場所に着いた。そこには、ただキャンプに来ている人たちも居るようであった。小さい子どもの声が聞こえてきた。

テントは、6人用途4人用。テントを張り、夕飯を作り始めた。米を炊きながら、それと平行して違うなべで肉を調理した。焼肉用の肉ではあったが、フライパンも油もなかったため、鍋に、水を少し沸かし玉葱・もやしを入れ、火が通ったところで味つき肉を入れた。肉に火が通ったところでスープの味見をした。この時点で美味しかったが、篠原さんが焼肉のたれをすべて入れた。味が濃くなるのではないかと思ったが、ご飯には、少し濃い味の方が美味しいようだ。

私が持っていった桃のゼリーは、思った以上に好評であった。自然の中で食べるから美味しいのであろうか、松本で食べた桃のゼリーは普通の美味しさであった。

食べ終わると、翌朝の豚汁のために、野菜を切ることになった。痛むことが心配であったが、一晩だけなら大丈夫という結果になり、すべての材料を切った。火の入りが早いように薄めに切るよう心がけた。切った具材はビニール袋に入れた。

歯を磨き、2ペットに水をいっぱいにし明日の準備をし、就寝した。

テント・シュラフでは、やはり寝にくいことを実感した。また、腰が痛くなった。高校の時は痛まなかった腰が、大学生になってから痛むようになった。登っている途中で痛むのではないかと思ったが、考えないことにした。

・2日目

2日目は槍ヶ岳まで一気に登る。これは、かなり不安であった。

朝食は、豚汁であった。具材は昨晚切つてあるため、手間が省けたが、ジャガイモが少々傷んでいた。鍋は2つ使い作った。ここで失敗したのは、餅を入れるタイミングである。具材に火が通ったところで餅をいれたが、意外に味噌を溶かすのに時間がかかってしまって、必要以上に餅が柔らかくなってしまった。また、柔らかくなった餅は鍋にもつき、洗う際にとても面倒なことになってしまった。次に作る時は、味噌を溶かした後に餅を入れるべきである。

朝食を食べて、槍ヶ岳へ出発した。ザックはかなり軽くなっていてため、少こしは楽に登れるかと期待した。

途中、ミキティー君の靴底が剥がれたため、彼とそれに付き添って鈴木が下山することになった。これは、私にとっての大誤算であった。鈴木は顔馴染みであり、同じ方向に帰る唯一の人である。その鈴木が居なくなるということは、何かあった時、一番頼れる人が居なくなるということであった。(いやぁ、かなりイタイ)そんなことを思っても「いやだ」といったところで、パーティー全体を困惑させることになるので、行動食だけ貰い2人を背に槍ヶ岳へ向けて出発した。

・登山

槍ヶ岳のテマ場までは、ただただ自分の体力のなさに驚くだけであった。根性もなくなっただろう。自分に対する甘えが、ところかしこにあった。明らかに軽いザックであるにもかかわらず、何故か足が進まなかった。すぐ息が上がり、なんども足が止まった。

しかし、途中の景色は綺麗だった。登れば登るほど標高は高くなり、後ろを振り向けば、それまで登った成果がすぐ分かったので、励みになった。それでも、私の登るスピードは遅く、河西くんにはペットボトルを持ってもらってしまった。しかし、登るスピードは速くはならず、申し訳なかった。

昼食は、途中の水場で食べた。その水は冷たく美味しかった。その水で湯を沸かしてラーメンを作った。棒ラーメンと言うラーメンは、全国に売っているのだろうか？私は初めてみたが、本当に棒状、素麺のような包装のラーメンであった。食べていると水を求めて、多くの人が休憩を取ったり、水を汲んだりしていたので、邪魔にならないか心配であった。

・到着

テン場に到着する少し前、藤田君がスティックを貸してくれた。ごめんなさい、ありがとう。更には、私を先頭にしてくれ、本当なら藤田君が最初に足を踏み入れるところを私が最初にゴールのロープを切るようなかたちになった。これは、私にとってかなり嬉しいことであった。ありがとう藤田君。

・テン場

空いているテン場は、4人用6人用を張るには小さすぎる場所であった。6人用をはったところは、本来なら3人用テントを張る場所であった。実際に組み立てては見たもののテントは2つともスペースからはみ出してしまった。今にも落ちそうなテントであったが、張ることができたので良かった。張り終わると篠原さんは早速横になっていた。

・夕飯

夕飯は、麻婆春雨丼であった。これは、おそらく私のリクエストであろう。米を炊くのは大変であったが、やはり麻婆春雨は美味しかった。米は、芯が残ったため、水を足して加熱するというのを何回か行なった。その結果、米は膨張し相当な量になっていた。案の定残り、春雨も残った。鍋命令が下ったのは、1年生の山下君であった。「たべますけど～」「残すのイヤなんで」という言葉が印象的である。彼がかなり苦しうように鍋を抱えているのを横目に、他の人はフルーツ缶を食べた。山下君がご飯を食べ終えたが、なぜか春雨が残った。山下君は食べないと言うので、麻婆春雨くらいならと食べたが、少し食べ過ぎてしまった。

篠原さんは高山病で気持ち悪いと言い、ご飯もあまり食べられなかったようだった。

・ブロッケン現象

食後、トイレに行くとき偶然ブロッケン現象を見ることが出来た。面白い現象に一人ではしゃいでしまった。面白い現象である。

・トランプ

テントに戻ると、篠原さんがいらしたので、肩揉みを互いにした。私の肩揉みが気持ちよかったかは分からないが、篠原さんの肩揉みは効いた。そこらじゅう痛かった。足まで揉んでいただいていた。そうしていると、トランプをしないかという誘いがあり、何をやるのかと効いたら「大貧民」と言うので参加した。大学でもやるが、私は常に貧民以下である。やはり、このときも終始貧民であった。7並べもやった。藤田君には変わった7並べを教えてもらいやったが、普通の7並べより楽しく、頭を使うゲームになっているのではないかと感じた。

・就寝

疲れていたためか、容易に寝られそうであったが、周りがうるさ過ぎ、寝るタイミングを逃した。そのうち、腰が痛くなり快眠できなかった。耳栓が必要であった。

・3日目

3日目は、新穂高温泉まで下山することになっていた。私は、下りが苦手である。人の倍かかる。必ず靴擦れをするし、コースタイムをオーバーする。

また、起きてすぐ6人用テントをたたみ、暗いうちから槍ヶ岳の山頂を目指し出発をすることとなっていた。

・起床

起床してすぐ、予定通り6人用テントをたたんだ。サブザックに軍手、デジカメ、行動食、携帯電話等を入れ、メインザックは4人用テントの方に入れた。

ここで問題が発生した。ヘッドライトが点かないのだ。電池を換えても少しすると消えてしまう。ところが、何分か経ってつけると、また点き、また消える。この繰り返しであった。これでは使い物にならない。一応持っては行ったが、頼りは前後の人の灯りのみであった。明るくなるまでは、細心の注意を払って登ることになった。

・山頂

頂上には、まだ誰も来ていなかった。私達だけしか居なかったのである。遠くの空は、薄く色付いていた。天気はとても良く、明るくなっていくに連れて見えてくる景色は最高であった。遠くの山も見え、富士山もうっすら見えた。

山と雲が、目の下に見える。この下に、町があるのか。そう思うと、とても胸がいっぱいになった。考えれば、山頂からのご来光は、今回が初めてであった。

日が昇り始めてからの太陽の速度は速かった。見る見るうちに昇りきった。オレンジ色に照らされる山は綺麗だった。登山の何が楽しいか、やはりこの瞬間が楽しく病みつきになるのだらうと思う。私にとって、登りも下りも楽しいものではない、下った後の楽しみもない。山頂に居る時だけが一番楽しいのである。私は、写真を沢山とった。その景色を持って帰れるように、できるだけ多く撮ったが、同じような物ばかり撮ってしまったような気がする。しばらくすると、他の登山客が登ってきたので、降りることになった。ここから下りるのは怖い。しかし、高校の

時より怖がらずに下りられた。が、やはり遅かったらしく、テン場に着くと既に朝食の準備が始められていた。

・朝食

朝食は乾麺のうどんであった。水を沸かし、そこに乾麺をいれ、茹で上がったところで、わかめ・スープを入れ完成である。皆で分け食べ始めたが、かなりしょっぱかった。原因は、乾麺についている塩分である。うどんや素麺などの乾麺には、必ず塩分が付いていて、そのため茹でた後のお湯は必ず捨てるのである。今回は、茹でたお湯も捨てず、そこにダシも入れたのでしょっぱくなったのであろう。確かパスタは塩分が付いていないので、次回はスープパゲッティーはどうだろうか。

・下山

私以外の人のザックは、かなり軽くなったようだった。私のザックは、元々軽いためこれ以上軽くしようがなかった。

やはり、私の下山スピードは遅かった。相当遅かった。このままでは、京都に帰ることができなくなる、温泉に入れなくなる。それは、私もいやなのでなるべく早くしようと頑張ったが、時間は待ってはくれなかった。確か、槍平まで来たところで、私の荷物を皆で分担して走るように下りよう、という話が出た。

下山は嫌だ。何故か登る時よりふらふらになりながら、槍平でザックを降ろしイスに座った。しかし、荷物を持ってもらうのは、もっと嫌だった。そんなことを言っている場合ではないことは分かっているが、もうこれ以上迷惑はかけられないと思ったのだ。それとも、変なプライドがあったのか？そこで私は「ここで別れよう」と提案した。彼らと私とでは、帰る方向が違うし、それが最善の方法ではないかと思ったのだ。確かに一人になる不安はあったし、一人で下りきる自信もなかった。

篠原さんが、私の提案を皆に伝え話し合った結果、藤田君が付き添ってくれることになった。彼は、京都まで帰らず、高山で下りるとのことだった。思ってもいなかったのが、かなり安心してしまったが、それと同時に申し訳なさも感じた。

そう決まると、また一緒に登ろうという話をし、篠原さんが「2 時間半でおりるぞ」という言葉を放つと、すぐに出発していった。間に合ったのだろうか。

・2人で下山

藤田君は「もうすこし休んでいいですよ」となんだかやさしい人でした。言葉に甘えて、休みました。水を汲み、食べ物を食べた。スティックも貸してもらった。これは、頑張っで下山しなくてはいけないと思った。

しかし、うまくいかないもので、下山スピードは一向に早くはならず、反対に遅くなる一方だった。途中、高校の時に泊まった避難小屋があり、相当懐かしく、思わず藤田君にそのことを言ってしまった。藤田君は少し驚いていたように思う。

途中、カモシカ(?)を見た。相当ビックリした。本当に野生の動物なんて居るんだ。そう思ったほどだ。しかし、襲ってこないか怖かった。

・山岳警備隊

かなりゆっくりと下山して、どのくらい経ったかは分からないが、約2時30分ころにあるおじさんに声を掛けられた。その方がいうには、「その歩き方では、着くのにかなり時間がかかる。途中までだけ車に乗って行くか」との事であった。藤田君も乗せてくれるものだと思っていたら、元気な人は駄目との事で私だけ乗せていただいた。「車から降りて歩いていれば、そのうち追いついてくるから」と言うので、その行為に思いっきり甘えた。

その方は山岳警備隊で新穂高に帰るところであった。途中で3人ほど人を乗せは知った。槍平山荘の主人の人と穂高岳山荘を受け持っている(?)山岳警備隊の人であった。橋の手前まで来ると車を脇に止め車を降りた。荷物は山岳警備隊の一人がしょってくれ、私は空身になった。

橋の手前で降りたのは、最近の雨で橋が流されたからであった。自然の力はすごい。

歩いてしばらくすると藤田君が追いついてきた。下りてからそんなに歩いてなかったように思う。私の歩行速度は相当遅いことが分かった。

しばらく会話しながら歩くと、今度は違う車が迎えに来ていた。車は速かった。なんて便利なんだと改めて思った。新穂高に着くと、高山行きのバスが後3分ほどで出るところであった。藤田君は高山行きのバスに乗って帰ることを知っていたので、焦った私はとっさに「ありがとうございます」とお礼を行った。すると藤田君は「後お願いします」と言って走って行ってしまった。今考えれば、そんなに急ぐこともなかったのではと思う。もう少し、ちゃんとお礼を言えればよかった。

私は、藤田君と別れた後、足にシップと絆創膏を貼ってもらい、どこかのホテルのスリッパまで貰った。松本BTまでのバスの時間と運賃まで調べていただいた。忙しいらしく、しばらくすると4,5人居た人たちが全員居なくなってしまった。

・松本へ

16時55分初高山行きに乗り平湯温泉で降り、17時45分初松本BT行きに乗り換えた。着いたのは19時10分だった。平湯温泉で公衆電話から母親に電話をかけ、迎えに来てくれるよう頼んだ。バスは、人が少なく行きと違ってゆったりと乗れて快適だった。途中うとうと寝たりもした。

19時10分。予定より早く着きそうだったが、市内近郊に入ると車が混雑しており、結局時間通りについた。すごい計算力だなと感心した。

着くころには、ザックを持つのも歩くのもやっとになっていた。情けない。

・到着

無事に家に到着し、まず風呂に入り、酒を飲みつつ夕飯を食べた。しかし、食べ物は、山の上で食べた方が美味しかった。

・その後

今日は7日ですが、今も筋肉痛に苦しめられています。

しかし、藤田君にはお世話になりました。彼は、終始笑顔で接してくれました。とても優しくかったです。私の中では不思議君です。笠井君には2kgも持ってもらって、ありがとうございます。山下君も終始笑顔の面白い人という印象が残りました。篠原さんの声は、裏声っぽく、話し方が懐かしかったです。なんだかチョコを沢山貰ったような気がします。

鈴木の高校時代のことを聞かれましたが、今とさほど変わりがないと感じます。浮いた話が聞きたいです。

感想

今回の登山では、自分の体力と根性のなさを思い知らされました。鍛えます。

山頂での景色はとても良かったので、行って良かったです。ブロッケン現象もカモシカも見ることが出来たし、なかなか充実していたのではないかと思います。

しかし、皆に迷惑を掛けたのが反省点です。こんど計画を立てる時は、コースタイム×1.5くらいでお願いしたいです。